

脈絡膜悪性黒色腫（みゃくらくまくあくせいこくしょくしゅ）

脈絡膜悪性黒色腫について

脈絡膜悪性黒色腫は、眼球の内側にある「脈絡膜」という層に発生する悪性腫瘍です。私たちの白目は外側から内側に向かって、結膜、強膜、脈絡膜、網膜という4層構造を形成しています。脈絡膜は厚さ0.1～0.3mmほどの血流が豊富な組織で、網膜視細胞に栄養を供給する重要な役割を担っています。

この腫瘍は脈絡膜の色素細胞が異常増殖することで発症します。

脈絡膜悪性黒色腫は比較的まれな病気ですが、進行すると視力に影響を与えるだけでなく、他の臓器に転移するリスクがあります。そのため、早期の診断と適切な治療が重要です。

症状について

初期には無症状のことも多いですが、進行すると以下のような症状を認める場合があります。

- **視力の低下**：ぼやけたり、細かい文字が見えにくくなる場合があります。
- **視野欠損**：視界の一部が見えなくなることがあります。
- **光視症**：明るい光や閃光が見えると感ずることがあります。
- **飛蚊症**：視界に小さな黒い点や糸のようなものが浮かんで見えることがあります。

発症から時間が経過すると腫瘍の増大に伴って、症状は重症化する場合があります。

診断について

脈絡膜悪性黒色腫の診断には、以下のような手法が用いられます。

- **眼底検査**

医師が専用の器具を使って、腫瘍の位置や大きさなど、脈絡膜の状態を観察します。

- **OCT（光干渉断層計）検査**

眼底検査で確認した腫瘍の断層像を撮影することで、腫瘍の形状や随伴所見などをより詳細に評価します。

- **超音波検査**

超音波を用いて腫瘍の形状や性質を調べます。

- **蛍光眼底造影検査**

特殊な蛍光色素を静脈に注入し、眼底の血流や腫瘍の血管構造を詳細に観察します。

- **CT/MRI 検査**

腫瘍が眼球外に広がっている可能性や転移を調べるために、頭部もしくは全身の詳細な画像を撮影します。

治療について

脈絡膜悪性黒色腫の治療法は、腫瘍の大きさ、位置、進行度、および患者の全身の健康状態に基づいて選択されます。

- 放射線療法

腫瘍を縮小・破壊するために、放射線を照射します。眼球を保存できる可能性が高い方法で、腫瘍の位置によっては「小線源治療」や「局所放射線治療」が選ばれます。

- 手術療法

腫瘍が大きく進行している場合、手術によって腫瘍を除去します。眼球全体の摘出を要する場合があります。

- 薬物療法

他臓器への転移が見られる場合など、化学療法や免疫チェックポイント阻害薬等が使用されることがあります。

執筆者

- 氏名： 甘利 裕明
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 眼科